

京都大学瀬戸臨海実験所  
水族館月報

No. 6

1953・2月(3月5日)

寒さが続いて魚の死ぬのが更に激しくなってきた。手を拱いて、魚が持込まれるのを待っていたのでは到底水槽を満にする事はおぼつかないと覚り、10日に餌料と日当とを支拂って特に魚に出で貰つて来た。この日の収穫はイセエビを餌にして大きなイシダイ一匹、現在 No. 35 水槽を独占している。かなり高価にはつくが有効な一方法である。またタカアシガニの購入方を南部所長に依頼しておいたが、埒があかないので、21日在海君に雑賀さんをつけ、酒代を持って参上して来て貰つた。効果は顔面でも8日には4匹を No. 35 水槽に收容した。すると、死んだものでは1匹50円位のカニを生かして水族館に持込むためには、1匹に約500円位を支払わねばならぬ事になる。水族館の魚族の値段には、こんなものがかなりある事を了解しておいたが、1月大和プロの懇請により送り出したアカウミガメの代金につき、実験所が法外な値を吹きかけたかの如き記事が大毎に掲載されたと聞いたが、カメ代として要求されたのは<sup>\*</sup>5,000円<sup>\*</sup>でその算出基礎は  
カメ代金 5,000円 (南紀一帯で採集されたとして)  
水族館迄の運賃 5,000円 ( )  
カメが獲れる迄、水槽を充たしておく大型魚購入資金  
(この場合、グリ5貫を2回に分けて入れる) 5,000円  
であった事を記しておく。カメはあと2匹位は是非必要で、今夏は八方午をつくしてみるつもりである。

- \* 1 動物園におけるアカウミガメの評価は 5,000円～30,000円の間である  
2 大和プロからは他の費用と合して17,565円の内の12,000円を受取っている (記帳は3月)

入場者が1月に引続いて意外に多かったため、借入金・未払金等、約90,000円を支払い、いよいよ本年度中に借金完済が現実となったのは喜ばしい。

館員南さんの御令息は3日当地でめでたく結婚式を挙げられました。近藤さんの御尊父は16日に京都で亡くなりました。夫々に心よりの祝意と平意を表します。

◎ 2月の入場者数

水族館発売切符数

大人 2637

小人 61

団体 3585

計 6283

明光バス発売切符数

大人 6707

小人 80

計 6787

無料入場者

28

合計 13070

◎ 2月の収入

観覧券売上金

247,469.00

雑収入

400.00

計 247,869.00

雑収入とは水族館における死魚を売却した代金です。死魚は料理して亀や魚の餌料(病魚は魚に与えない)として使いますが、水温が低いため亀・魚に全然食慾がなく、止むらく屍込女する人達に押し付けられたものです。

◎ 支 出

1月より繰越(	-----	18,750.00
1月分入场税	12,026.00 - 2,004.00(備所山) =	10,022.00
災害予備積立金	-----	8,728.00
	<u>差 引</u>	0

人件費(給料、人夫代)		39,780.-
光熱費(電カ代)		6,384.-
消耗品費(明光バス切符印刷代他)		1,840.-
備品費(水族館入场記念スタンプ)		900.-
修理費(自転車修理, 水増棒金及カ金網)		1,800.-
材料費(魚類及カ飼代)		12,900.-
厚生費(新聞, 慶弔金)		2,230.-
積立金(退取資金, ベースアップ資金, 党手資金, 厚生資金)		13,900.-
水族館使用料, 会議費積立		20,000.-
旅 費(白浜-南部)		600.-
雑 費(お茶)		70.-
特別費(顕微鏡字真用カメラ代金 一部)		19,000.-
契約金		41,836.-
借入金返済		70,000.-
	<u>計</u>	230,440.-
	3月に繰越(	17,429.-

備所山に対する契約金は  
 $(247,469.00 - 1,250.00) \times \frac{1}{6}$  として算出された。

◎ 入场税

25・26 両日大阪夕陽丘会館で開催された全国博物館  
 研究協議会で入场税と結びついた登録の問題について論議  
 がつくされた。この件についての詳しい報告及び対策につ

以上の協議は4月上旬に開催の委員会に於て行います。

◎ 2月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(19)	7	7	5
気温	$\frac{5.9-10.0}{7.4}$	$\frac{7.5-15.0}{10.4}$	$\frac{7.0-14.1}{10.5}$
水温	$\frac{11.4-13.4}{12.4}$	$\frac{12.7-16.2}{14.1}$	$\frac{12.3-15.2}{13.8}$

組員 気温は南水槽室で10時に測定  
水温はNo.22水槽

◎ 2月の魚

水槽をにぎわしていた魚が次々に死絶した。

- 1) コバンザメ ----- 5日
- 2) ニシキエビ ----- 7日
- 3) ミノカサゴ ----- 22日
- 4) コウイカ ----- 22日

数を調べたところ、このコウイカはハリイカであった。この数は弱ってくると水面に浮かび上り沈み付く。

次いで腹面の美しい緑玉色が次第に褪め、白く、最後にいつかは縮めている触手をたろりと伸ばし切つて、これが最終である。

交代して次の魚類が一目見得ている。

- 1) フリ ----- 5日。約2貫目もの2匹がNo.24水槽に入つた。当地に於けるこの魚の名称は次の通り。(自浜所漁業組合採用)

仔長	呼ぶ名
10cm位	ワカナ
20 "	ツバス
30 "	イナダ
40 "	ハマチ
60 "	メジロ

14) 以下の記録がある。

1) アカクラゲのエフアイラ No.26-16, 28水槽に於て28日迄発生を続けている。

2) ウメホシイソギンチャク 去年12月12日に母体より排出された幼者は、3月4日現在 豆籠の径約15mmに成長している。

3) ヒトエガイ 7日エビ網にかいたものを1匹購入した。前回のものは黒く、体は灰白色を呈し、それに淡灰褐色の斑紋がある。

4) アメフラン 下旬に4つで一匹、二匹と採れるようになった。

### ◎ 魚の味

水族館で飼養した魚が死んだ時、味をたいてそれを食べて味を記録しておくか、この2月中旬に皆で餌に（餌ものはいつでも、脂が落ちて、まるで碎魚を水でもどいて食べるようであつた。水族館に入れて食えるのは、せいぜい5日と云うが、長ければ長い程確かに味は落ちてくる。ニシキエビは大味でヤ、固いが、1が美味であつた。

### ◎ 委員会

4月11日（土）に実験所で委員会を開催します。いづれ改めて御案内は差上げます。次に今晩に決定した振興会役員を記しておきます。

会長	宮地 傳三郎	(所長)
監事	本田 要太郎	(会計課長)
	水野 喜久三	(理学部事務長)
	岩城 一治	(白浜町助役)
委員	宮地 傳三郎	

内海	富士	文	(実験所員)
時岡		隆	( " )
山路		房	( " )
高田	喜	三	(理学部事務室)
南	和	七	(白浜町長)
峰尾		繁	(白浜観光協会長)

---

白尾隆